

(15) 越路(こしじ) 鉾山跡一増補版

最近、GPSのガーミンを持参して本鉾山を再訪した。また、本鉾山の鉾山図なども既に入手していたので、それらを手引きとして現地を確りと再探査することが出来た。既報の探査記を今見ると、現地紹介が極めて不十分なものであった。今回この点を反省して、確りとした探査記に仕上げることにした。なを、今回の増補版を書き上げるために、現地を数回連続して訪問している。従って、ガーミンの経路ログはそれらを合体したものとなっている。一度の訪問内容でないことに留意すること。

ところで、最近「秘境駅」が注目を引いているようである。本現地近傍には会津鬼怒川線の「男鹿高原駅」がある。無人駅である。現地にはこの駅の脇を通る。一度この駅に立ち寄った。周りには全く民家はない。が、何故か近傍に広大なペリポートがある。会津鬼怒川線の始発駅は東京の浅草であると思っている。浅草から直通でこの駅に立てるのではないか。東京に一番近い秘境駅なのかも知れない。

2019年10月、11月

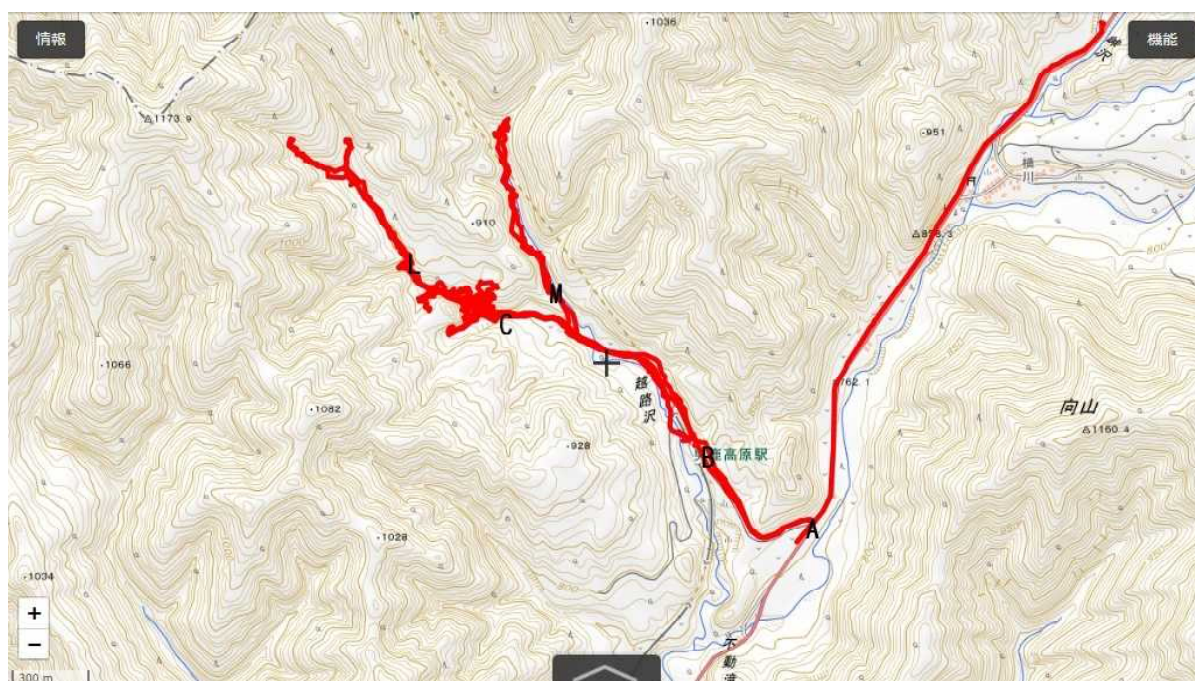


図1 国道121号線から会津鬼怒川線の男鹿高原駅をめざし、A点で林道に入る。駅あたりまでは舗装であるが、その先はダート。チェーンゲートが閉まっていなければ、車で林道を先に進め、今回もCあたりまで登り上がった。正に現地に車横付けである。鉾山施設跡の場所である。普通車でも大丈夫であろう。ゲートが閉まっていたならば、手前当たりの適当な空き地に車を駐車させ、徒歩となる。B-C間は約1km。C点一帯に鉾山跡がある。

本鉾山を訪問する別の方法もある。図から分かるように、会津鬼怒川線を利用する方法である。男鹿高原駅で下車するのもおすすめである。

今回の報告書では、ガーミンで得た経路ログ曲線を赤い路線で描いている。今までのように水色線だと、地形図中の川、沢の色と同色となり、混同しかねないためである。後掲の図4を手引きに、沢の上流部の探査も行った。C→L→赤線先端までと、C→M→赤線先端まで。ともに林道は幅は広く平坦であり、歩行に不安はない。



図2 図1の部分拡大図である。本来の地形図になかった沢の水流を水色線で書き加えている。ガーミンの経路ログが赤線である。何回かの経路ログを重ね書きをしている。また、電波状況が悪い時もあり、経路ログが実際とずれていることに留意すること。

緑丸が確認した坑口跡である。また、チェック点を図中にアルファベット1文字で書き加えている。後掲の図3の鉱山図と対比すると良いであろう。C点ー選鉱場跡、H点ー松平坑、G点ー火薬庫、D点ー池、J点ー鷹の羽坑？。図3の鉱山図と対応できていないが、E点は立派な坑口跡、F点は垂直岸壁にある露頭鉱脈、I点は沢水準の右岸にあった粘土化した露頭鉱脈、かつては結構大きな黄鉄鉱塊が採集できた。既報の写真を参照のこと。が、現在はこの箇所には流木などが堆積しており、採集は難しいかも。K点は今にも隠れてしまいそうな坑口跡。L点は沢水準の左岸にあった粘土化露頭鉱脈。M点は非常に立派な坑口跡。何故か鉱山図には記載がない。

選鉱所後の擁壁のある立石沢の下流部分に黄鉄鉱の転石が結構散在している。多くはまばらで小粒であるが。じっくり探せば、気に入るものが採集できるかも。その他、F点、L点に鉱石が散在している。I点は流木が積み重なっており、採集困難かも。

第 2 図

越路鉱山鉱床附近地質図

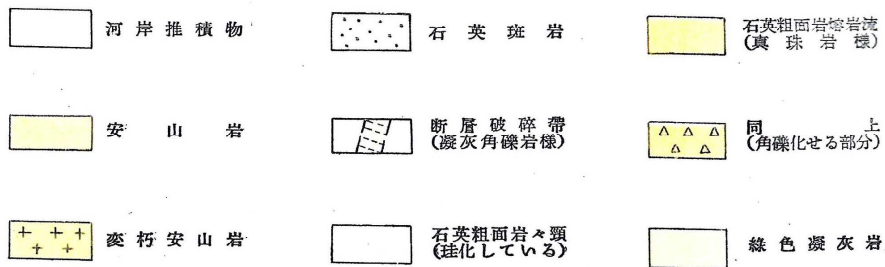
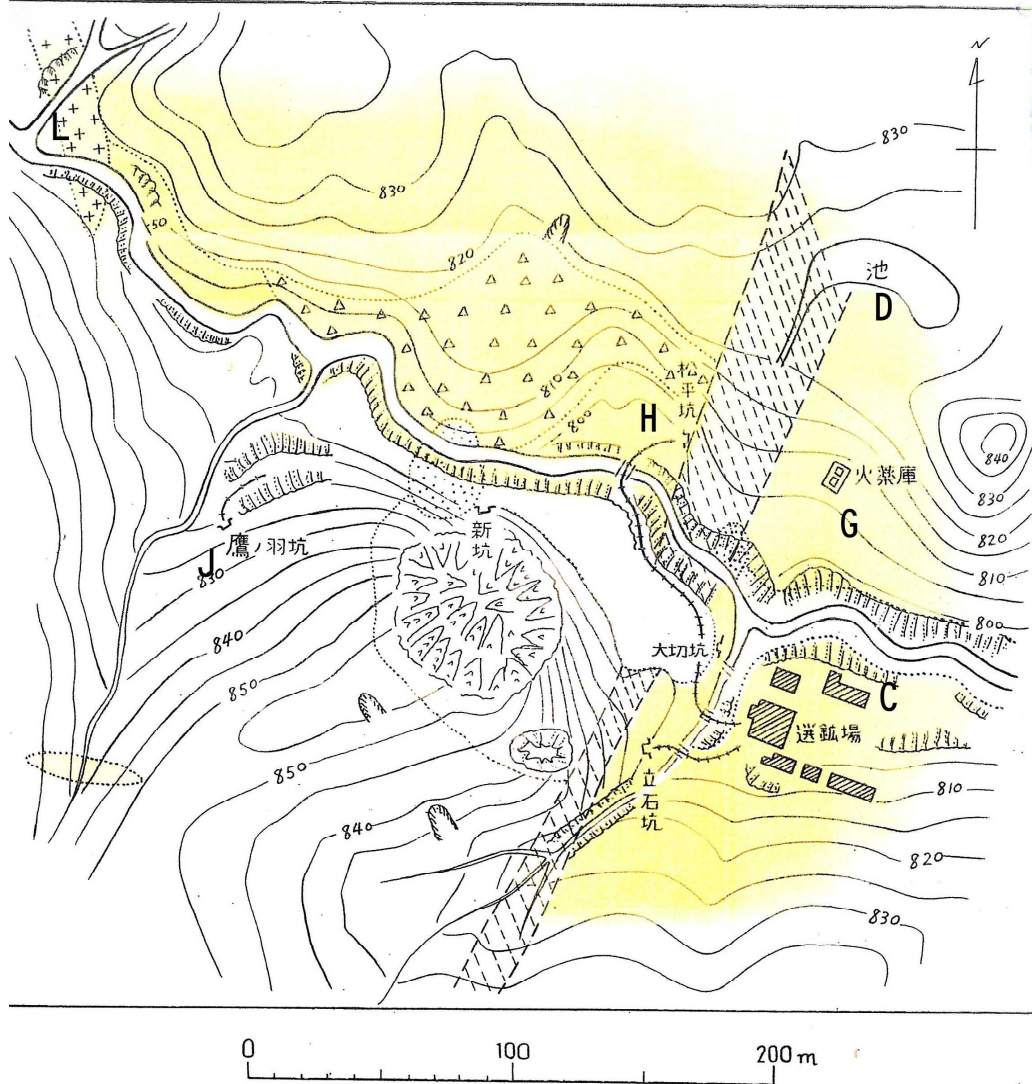


図3 参考文献(1)から複写掲載。現地探査の結果である図2と、この鉱床図を対照させ、結果をアルファベットで対応させている。が、「大切坑」、「立石坑」、「新坑」は埋まってしまったのか確認できていない。この図を見ると、トロコレールが記載されている。レールは通常水平に敷き設けるものなので、現地でこれを参考にして地形を読めば、当たりがつけられるかも。

鉋山跡写真



写真1 図1，図2中のC点である。林道を上ってくると、左手にこの擁壁、右下は沢である。河床は茶色をしている。豆知識：この色は上流側に鉄系の鉋床がある証。



写真2 進んできた林道から右に下にある沢に降りる。図3のH点。プラトー先の中央の黒い部分が松平坑跡である。



写真3 写真2の坑口から内部を見る。坑道の半分近くが水没している。が坑道はしっかりしている。



写真4 図2のG点である。高い土畝が数本あり、火薬の分散保管を思わせている。



写真5 図2のD点である。広い湿原である。



写真6 図2のE点の所で確認した坑口跡。図3中にはこの坑口の記載はない。



写真7 写真6の坑口の入口から内部を見る。確りと坑道の形を保っている。



写真8 図2のF点である。露頭鉱脈を確りと観察できる。足下には転石も多い。



写真 9 前方の擁壁の先はプラトー状。そして、このプラトーの先、図 2 の K 点で示している所に坑口があった。



写真 10 図 2 の K 点の所で確認した坑口跡。中央の黒い所。もう少しで埋もれてしまうかも。図 3 中の「鷹の羽坑」ではなさそう。J 点付近で確認した斜面中の窪地が「鷹の羽坑」と思われるので。



写真 11 写真 10 の坑口跡の入口から見た内部の様子。



写真 12 図 2 の J 点の所で確認した斜面中の凹部。これが「鷹の羽坑」跡なのかも知れない。



写真 1 3 図 4 を指針にして越路沢を上流に進んだ。広い林道は確りと生きていた。図 2 中の L 点である。沢水準の左岸部に粘土化露頭鉍脈を確認した。黄鉄鉍塊の小さいものが点在している。石膏も多い。ここで拳大の石膏の塊を採集した。



写真 1 4 これも図 4 を指針として沢を上流に進んだ。M 点の所で立派な坑口跡を確認した。沢の右岸の沢水準である。中央の黒い部分。



写真 1 5 写真 1 4 の坑口から内部を見た様子。

参考文献

- (1) 「地下資源調査報告書 第 2 号」、栃木県、昭和 2 8 年（1 9 5 3 年）？。
- (2) 「日本地方鉍床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、昭和 4 8 年（1 9 7 3 年）。

(15) 越路(こしじ) 鉾山跡

参考文献(1)、(2)を手引きにして、栃木県日光市横川にある越路鉾山跡を探索した。国道121号線を北上し、会津鬼怒川線の男鹿高原駅まで車で行ける。この駅は無人駅である。それ以上に驚いたのは、周りに全く人家がない。なのに何故駅があるの？ この駅の目の先には、長い(鉄道の方)山王トンネルがある。そのためなのかな。この駅から越路沢に沿って延びている林道の約1km先に鉾山跡がある。車止めが外れていれば、車で鉾山跡までいける。徒歩でも数十分である。周りや足下を探索しながら歩くのもよいであろう。駅当たりから北へ500mほど林道を進むと橋がある。沢を見ると河床が赤茶けている。上流に鉾山がある証拠である。橋を渡って進んで行くと、国土地理院の地図には記載されていないが、林道は2股に分れている。右側は沢に向かっていて、左側は山を左手に、沢を右手にしている。沢は赤茶けている。鉾山跡への道は、左側の方である。林道の分岐点から300m～400m進んだあたりに鉾山跡がある。もし、右下に見えている沢の赤茶けが無くなっているならば、行き過ぎてしまっている。その時には、林道から沢に降りて、河床の色が赤茶けているところまで沢下りをする。沢が赤茶けを開始している箇所左岸の少し平坦な所に「松平坑」がある。沢に面して小さなズリもある。このズリから今でも小さな黄銅鉾の塊は結構拾える。沢から松平坑に向かって少し左側に坑口が埋没したと思われる箇所がある。参考文献(1)に記載されている坑(松平坑に並んでいる坑)と思われる。

松平坑から目の前の林道に戻ってみよう。この場所が越路鉾山の真ん中あたりである。この付近に、他の坑道跡がある。林道の山側には大きな石がごろごろしているであろう。ここを進んでいくと古びた石段がある(参考文献(2)の写真)。この石段の先に坑口がある。立石坑か。石段まで戻り、大石をもう少し先に進んでいくと右手に崖となった綺麗な斜面がある。近づいてみると、黄銅鉾を含有した鉾脈の露頭であることがわかる。このあたりが大切坑跡なのかもしれない。鉾脈の露頭が、簡単に観察できる貴重な箇所である。粘土質凝灰岩の中に小さい黄銅鉾の単結晶や小さい塊が一面に見えるが、堀崩しや切り欠きはほどほどにしよう。

林道に戻り、林道を先に数十m進むと林道の左側の崖に坑道跡がある。林道を更に数十m進むと、林道の左側が少し平らなところがある。これを上り詰めると、坑口跡がある。鷹ノ羽坑跡か。

林道を下り、先ほどの分岐点に戻る。右側の林道を進んでみよう。200m先の林道左側に、コンクリートの廃材が残っている坑口跡がある。が、周りにズリは全く見えない。河床も綺麗である。松平坑とは山を挟んでいる。通洞坑であったのかもしれない。

先ほどの松平坑跡に戻ろう。この所から、沢の下流数十mのところ、沢の右岸(林道の下に当たる)に、黄銅鉾を含有した粘土質凝灰岩の露頭がある。河床ぎりぎりのところにある。先人たちが苦勞して、採集した形跡が残っている。粘土を掘り出し、流れている沢水で篩を掛ければ、大小様々の黄銅鉾の塊、結晶を採集できよう。これもほどほどにしよう。



地図中のバツテン印の箇所が鉾山跡の中心

地図 国土地理院 2万5千分の1 地形図「荒海山」

探索日 2009年5月、その他の日

参考文献

(1) 「日本地方鉾床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。

(2) <http://www.geocities.jp/matagi44/kosiji.html>

鉾山跡写真



林道の2股地点。鉾山跡へは左道。右道の先は沢



河床は赤茶色。画面中央奥が松平坑跡。ズリが垣間見える



木の幹の間に見える中央の白色及び薄茶色の断崖が鉾脈の露頭部分
あまり削らないように。できれば見るだけにしよう。



河床脇の鉱脈の露頭部分。掘り込んで穴となっている。

採集鉱物写真

品名	黄銅鉱	金属銅の主要鉱物
化学組成	CuFeS_2	
色	真鍮色、金色	
光沢	金属光沢	
条痕	緑黒	
比重	4.2	
硬度	4	
結晶系	正方晶系	
劈開	なし	
共生鉱物	黄鉄鉱、斑銅鉱、閃亜鉛鉱	
解説		



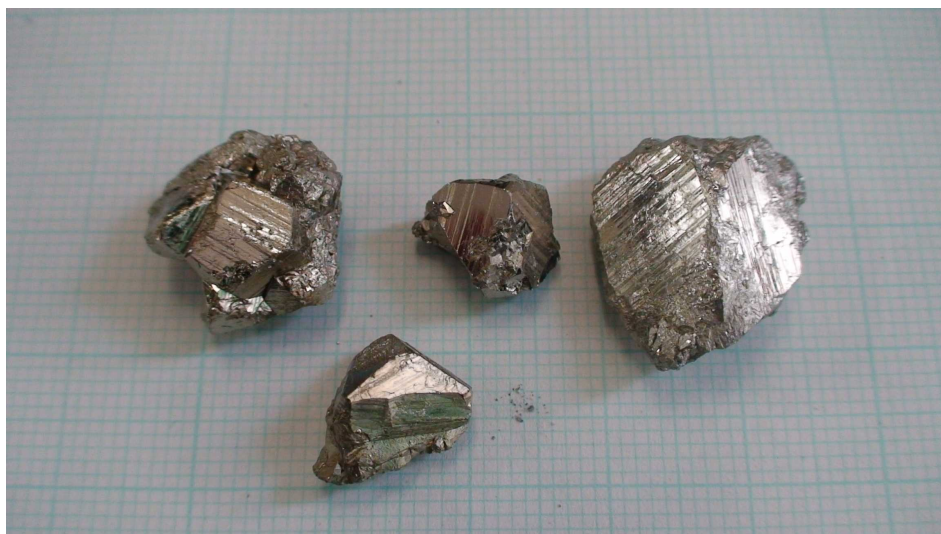
凝灰岩と黄銅鉱塊



黄銅鉱の塊 幅 6 c m 弱



黄銅鉱の塊 2 つ



結晶面の良くでている採集品